

### (米国)トランプ関税による期待インフレ率の上振れ

トランプ政権による関税の発表は二転三転を繰り返しているものの、10%の基本関税や中国、カナダ、メキシコへの関税などからインフレ率の加速が予想される。また、電子機器などへの関税を減免する可能性もあり、関税の適用は複雑化しつつある。

関税率・時期・輸入に占める割合

	関税率	時期	輸入に占める割合	備考
基本関税	10%	4月5日	ほぼ100%	
メキシコ製品（USMCA対象外）	25%	3月4日	7.7%	
カナダ製品（USMCA対象外）	25%	3月4日	7.8%	
メキシコ製品（USMCA対象）	10%で据え置き	4月2日	7.7%	
カナダ製品（USMCA対象）	10%で据え置き	4月2日	4.7%	
中国製品	145%	4月9日	13.3%	
自動車（部品は5月3日頃）	25%	4月2日	14.4%	メキシコ、カナダ製品の見直しを検討
医薬品	25%以上？	？	7.4%	5月12日まで意見公募
半導体	？	来週公表予定	2.5%	5月12日まで意見公募
鉄鋼・鉄鋼製品	25%	3月12日	0.7%	
アルミ	25%	3月12日	0.5%	
銅	？	調査～11月22日	0.3%	
相互関税		7月8日まで延期		電子機器と部品は対象外

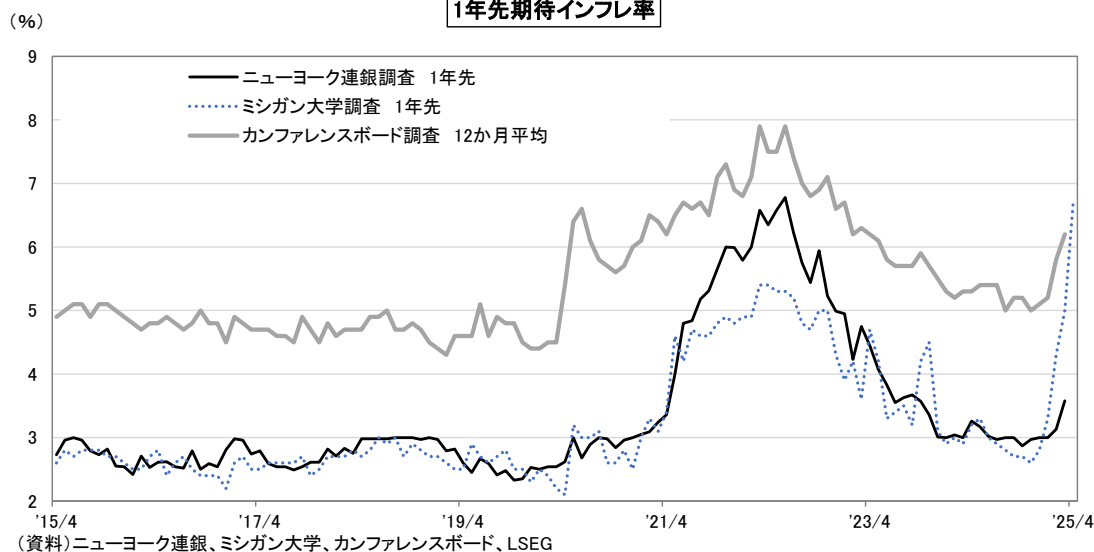
（資料）米センサス局、各種報道、ホワイトハウス

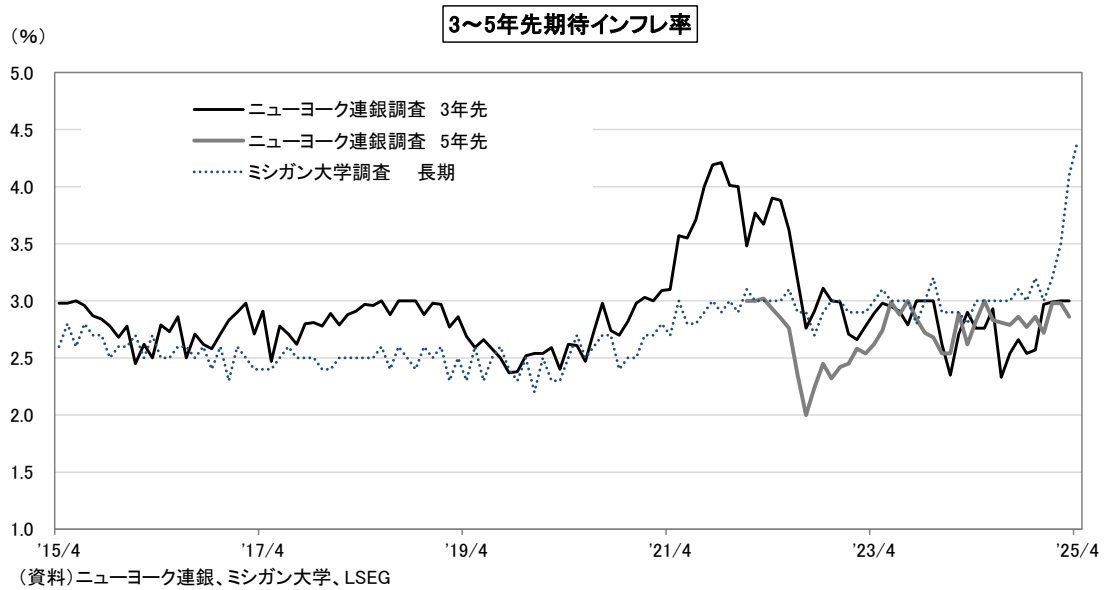
（注）輸入に占める割合は24年の平均値、財輸入のみ。特例的に対象外になっている財もある。

こうしたなか、足もとでは期待インフレ率が上昇している。11日に公表されたミシガン大学調査（4月、速報値）では、1年先期待インフレ率が1.7ポイント上昇の6.7%となり、長期期待インフレ率も0.3ポイント上昇の4.4%となった。

一方で、14日に公表されたニューヨーク連銀調査（3月）では、期間によって期待インフレ率の動きはまちまちとなった。1年先期待インフレ率は0.5ポイント上昇の3.6%となったが、3年先は変わらずの3.0%、5年先は0.1ポイント低下の2.9%となった。

1年先期待インフレ率





コロナ禍の下では、期待インフレ率の上昇が実際にインフレ率の加速につながったこともあり、引き続き期待インフレ率の動きには十分に注意する必要があると思われる。また、筆者は今のところ、期待インフレ率が上昇するなかで、FRB が利下げする可能性は非常に低いと想定している。